

愛媛県の地震

2025年2月

目次

1. 愛媛県周辺の震央分布図1
2. 地震概況1
3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震.....2
4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震の震度分布図.....2~3
5. 地震一口メモ
「北海道・三陸沖後発地震注意情報」について.....4~5

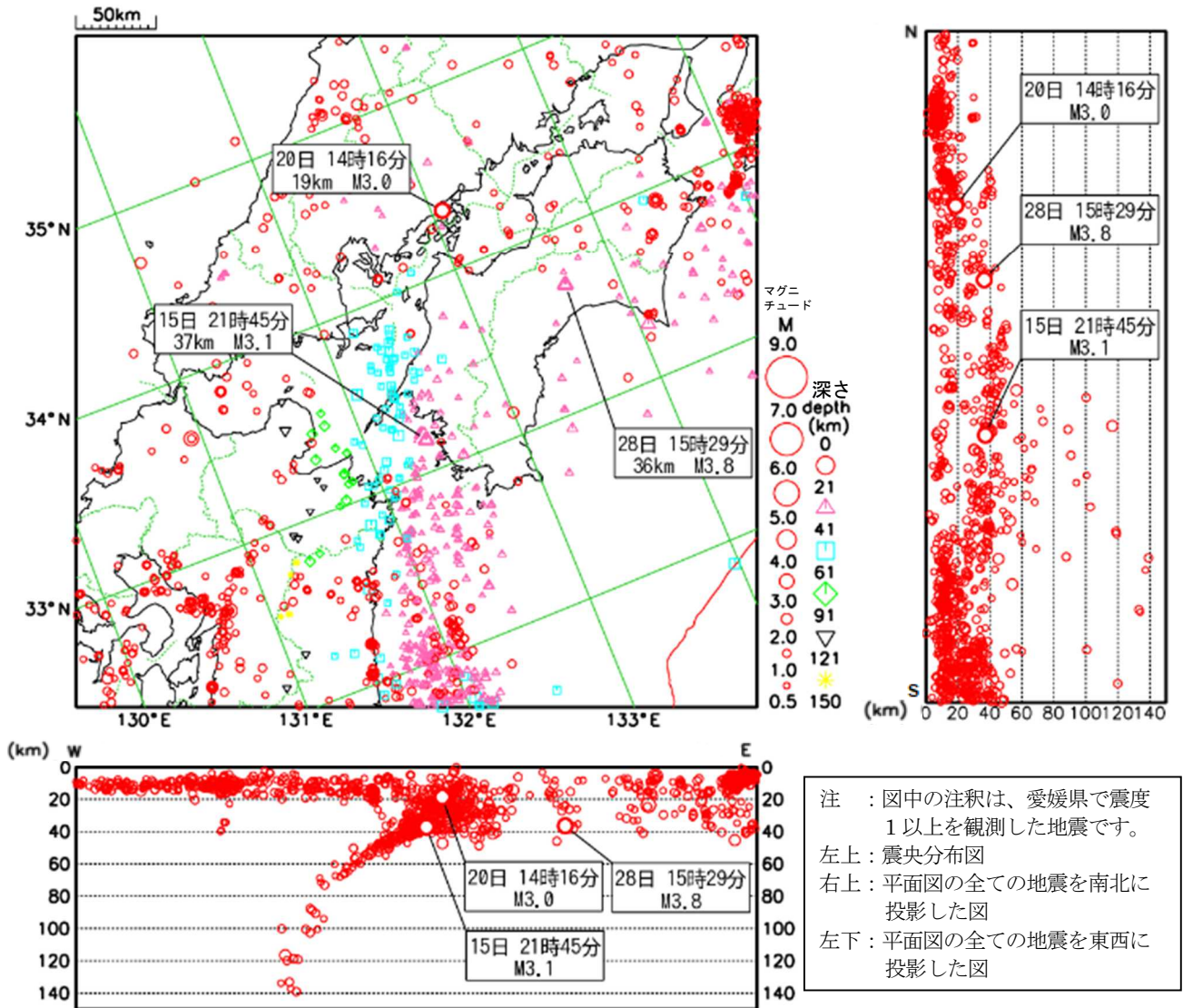
本資料に記載した震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は、暫定値です。これらは、後日、再調査のうえ修正することがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松山地方気象台

1. 愛媛県周辺の震央分布図 [2025年2月1日~2月28日]



2. 地震概況

2025年2月に、上図の震央分布図内の領域で決定した地震のうちM2.0以上の地震の回数は81回（先月は220回）、愛媛県内で震度1以上を観測した地震は3回（先月は8回）でした。

15日21時45分 豊後水道の地震（深さ37km、M3.1）により、愛媛県宇和島市・八幡浜市・愛南町で震度1を観測しました。そのほか、高知県で震度1を観測しました。

20日14時16分 瀬戸内海中部の地震（深さ19km、M3.0）により、愛媛県今治市・上島町で震度1を観測しました。そのほか、広島県で震度1を観測しました。

28日15時29分 高知県中部の地震（深さ36km、M3.8）により、愛媛県西条市で震度2を観測しました。そのほか、香川県、高知県で震度2を観測し、中国・四国地方で震度1を観測しました。

3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震

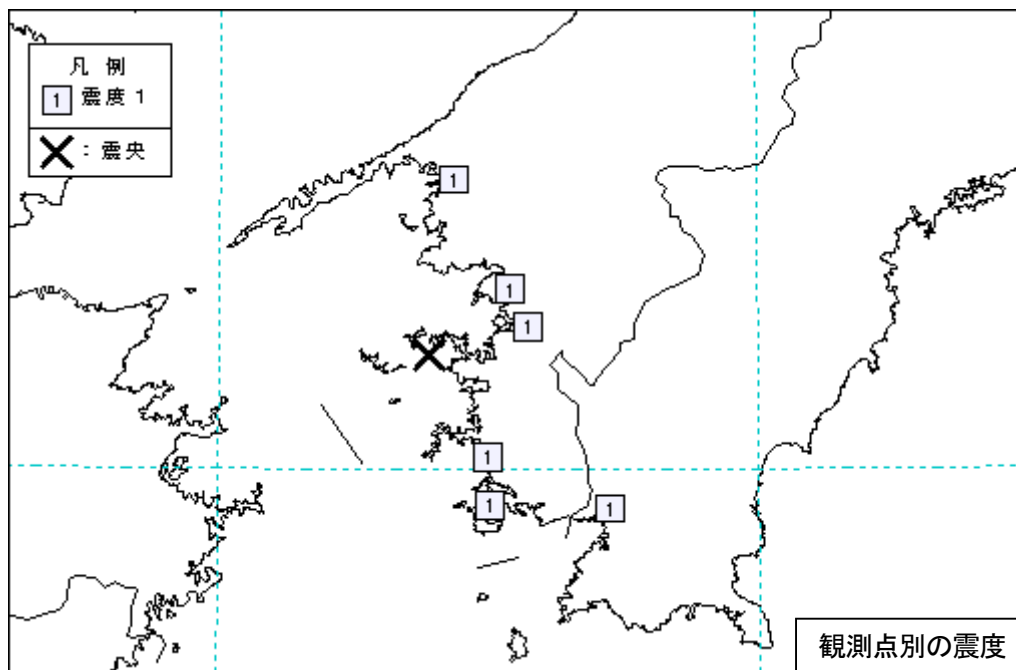
注：*印は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

震源時（日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード	最大震度
愛媛県内各地の震度						
2025年02月15日21時45分	豊後水道	33° 10.5' N	132° 23.4' E	37km	M3.1	1
----- 地点震度 -----						
愛媛県	震度 1：宇和島市丸穂*、宇和島市吉田町*、八幡浜市五反田*、愛南町船越*、愛南町柏*					

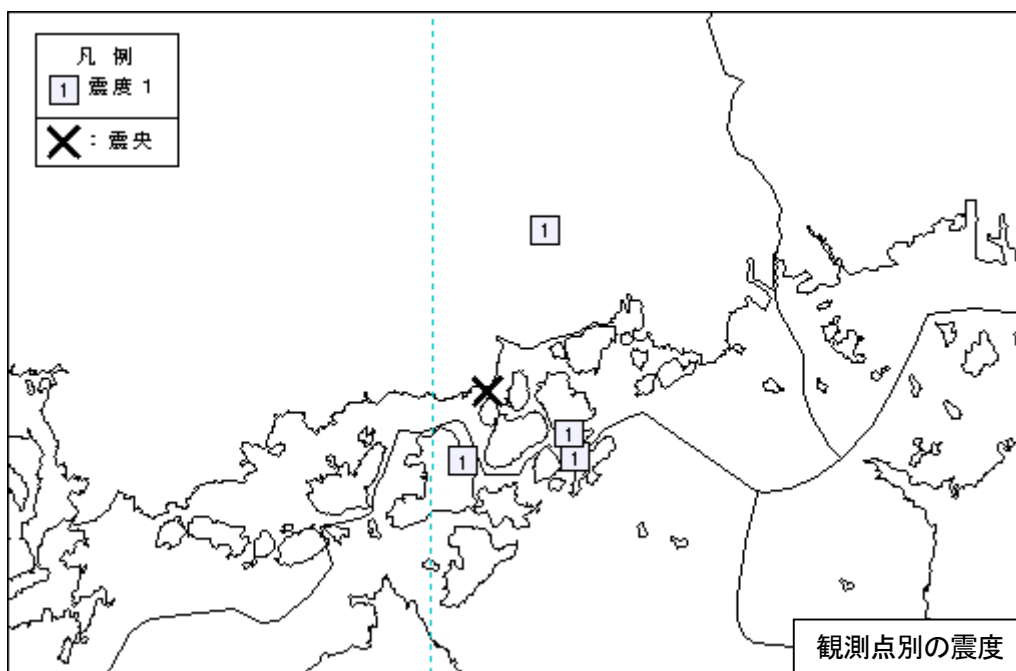
2025年02月20日14時16分	瀬戸内海中部	34° 20.2' N	133° 04.3' E	19km	M3.0	1
----- 地点震度 -----						
愛媛県	震度 1：今治市上浦町*、上島町生名*					

2025年02月28日15時29分	高知県中部	33° 41.1' N	133° 38.8' E	36km	M3.8	2
----- 地点震度 -----						
愛媛県	震度 2：西条市丹原町鞍瀬					
	震度 1：今治市南宝来町二丁目、今治市朝倉北*、今治市大西町*、今治市菊間町* 今治市吉海町*、今治市宮窪町*、今治市上浦町*、今治市伯方町*、新居浜市一宮町 新居浜市別子山*、西条市周布*、西条市新田*、西条市丹原町池田*、西条市小松町* 四国中央市中曾根町*、四国中央市金生町*、四国中央市新宮町*、上島町生名* 上島町弓削*、久万高原町渋草*					

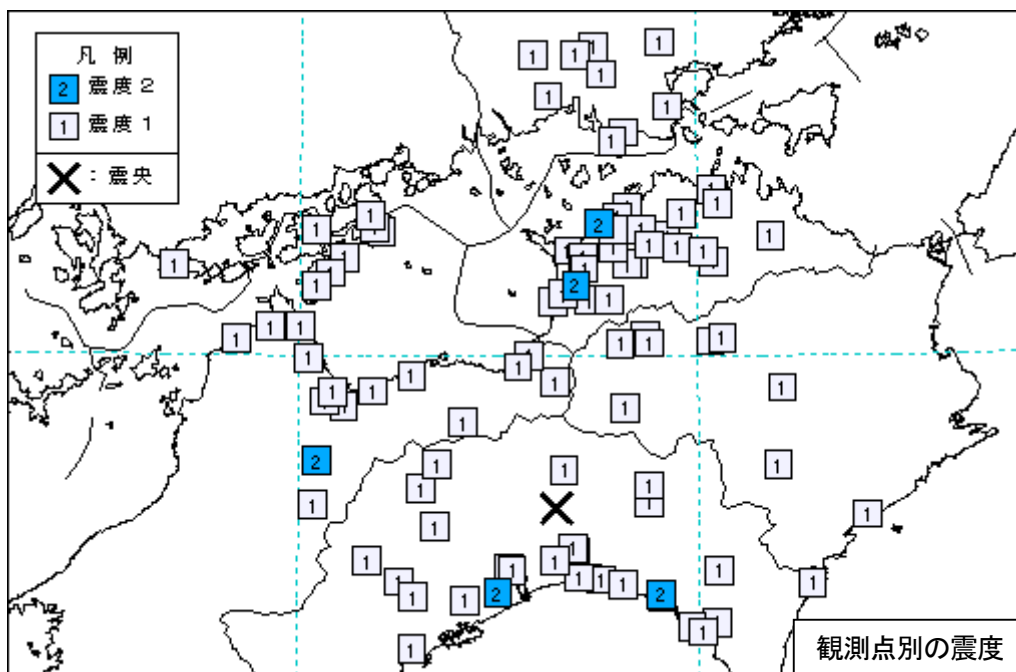
4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震の震度分布図



2月15日21時45分 豊後水道



2月20日14時16分 瀬戸内海中部



2月28日15時29分 高知県中部

5. 地震一口メモ

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」について

(1) 北海道・三陸沖後発地震について

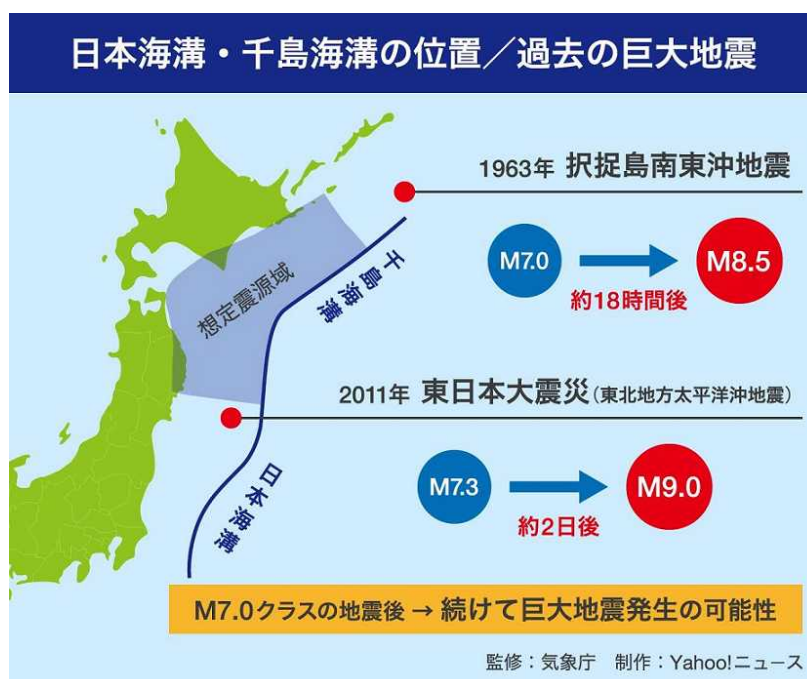
日本海溝及び千島海溝沿いの領域では、マグニチュード (M) 7～9 の大小さまざまな規模の地震が多数発生しており、2011年に発生した東北地方太平洋沖地震では死者・行方不明者が2万人を超えるなど、主に津波により甚大な被害が発生しました。また、それ以前にも、1896年の明治三陸地震や869年の貞観地震など、巨大な津波を伴う地震が繰り返し発生しています。

日本海溝・千島海溝沿いの領域では、突発的に地震が発生した場合を想定し、平時から事前の防災対策を徹底し、巨大地震に備えることが重要です。また、モーメントマグニチュード (Mw) (※1)7クラスの地震が発生した後、数日程度の短い期間において、さらに大きな Mw8クラス以上の大規模な地震が続いて発生する事例なども確認されています。そこで実際に後発地震が発生する確率は低い(※2)ものの、巨大地震が発生した際の甚大な被害を少しでも軽減するため、中央防災会議において、後発地震への注意を促す情報の発信が必要である旨が提言されました。

この提言を踏まえて、気象庁では令和4年12月16日から「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を運用しています。

※1 モーメントマグニチュード (Mw) とは、岩盤のずれの規模(ずれ動いた部分の面積×ずれた量×岩石の硬さ)をもとにして計算したマグニチュードです。一般に、マグニチュード (M) は地震計で観測される波の振幅から計算されますが、規模の大きな地震になると岩盤のずれの規模を正確に表せません。これに対してモーメントマグニチュードは物理的な意味が明確で、大きな地震に対しても有効です。ただし、その値を求めるには高性能の地震計のデータを使った複雑な計算が必要なため、地震発生直後迅速に計算することや、規模の小さい地震で精度よく計算するのは困難です。

※2 過去100年程度の間(1904年～2017年)に世界中で発生した Mw7.0以上の地震は1477事例であり、そのうち、地震発生後7日以内に Mw8クラス以上 (Mw7.8以上) の地震が発生したのは17事例です。



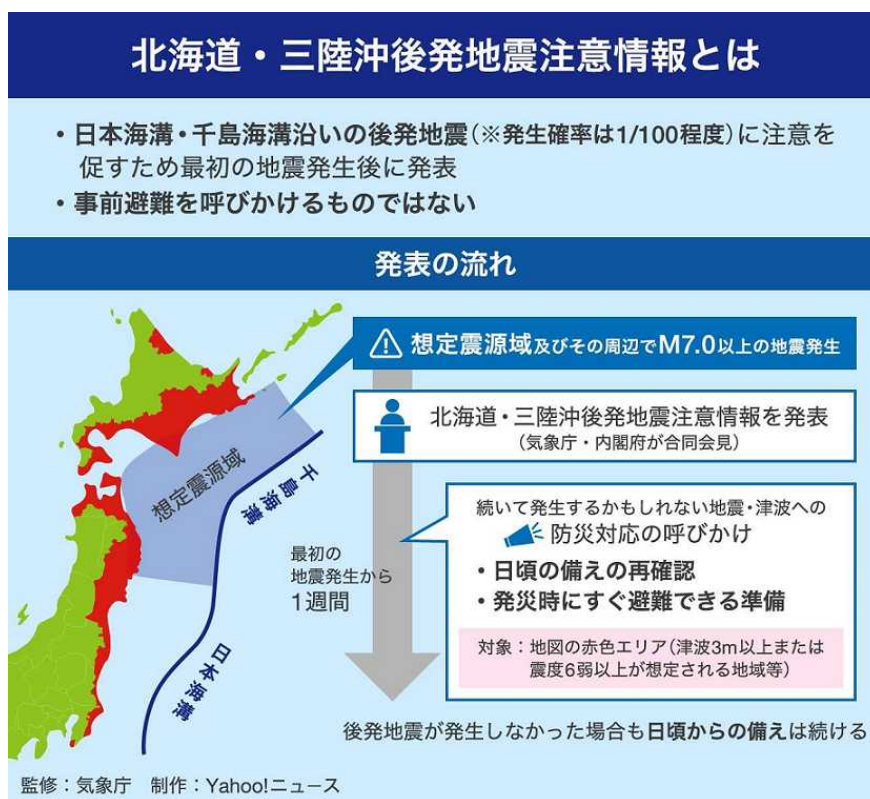
(Yahoo!ニュース制作図解。商用利用不可。図解を分割編集しての使用はできません。)

(2) 「北海道・三陸沖後発地震注意情報」について

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」は、北海道の根室沖から東北地方の三陸沖の巨大地震の想定震源域やその周辺でMw7.0以上の地震が発生し、大規模地震の発生可能性が平常時より相対的に高まっている際に発表する情報です。この情報は、後発地震の発生時期や場所・規模を確度高く予測する情報ではなく、ましてや発生を予知する情報でもありません。また、大規模地震の発生可能性が平常時より相対的に高まっていると言っても、後発地震が発生しない場合の方が多く、その一方、防災対応を呼びかける1週間が経過した後も大規模地震が発生する可能性があることなど、極めて不確実性が高い情報です。

このような背景を持つものの、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発表するのは、過去の大規模地震が後発地震として発生している事例が知られているからであり、たとえ不確実性が高くとも警戒レベルを上げることで被害軽減を図ることができると考えられるからです。突発的に発生する地震への日頃からの備えを前提とした上で必要な防災対応を呼びかけ、より多くの人命を守るための取組なのです。

情報が発表されたら、地震発生から1週間程度、社会経済活動を継続しつつ、日頃からの地震への備えの再確認をすることに加え、揺れを感じたり、津波警報等が発表されたりしたら、すぐに避難できる態勢を準備しましょう。



(Yahoo!ニュース制作図解。商用利用不可。図解を分割編集しての使用はできません。)

参考：(1) 気象庁 HP 『北海道・三陸沖後発地震について』

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/nceq/index.html>

(1) ※1 気象庁 HP 『震度・マグニチュード・地震情報について』

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/faq/faq27.html>

(2) 気象庁 HP 『「北海道・三陸沖後発地震注意情報」について』

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/nceq/info_guide.html